

令和 2 年 9 月 7 日
高校WG（第11回）参考資料 3

高等学校と関係機関との 連携・協働に関する参考資料

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

令和2年度予算額（案） 252百万円
（前年度予算額 251百万円）

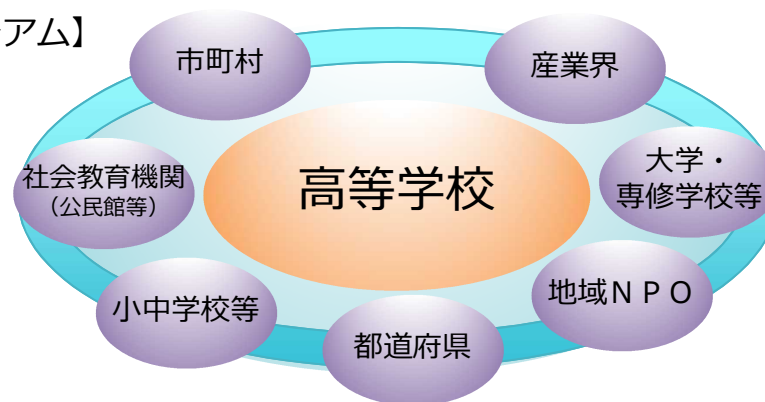


新高等学校学習指導要領を踏まえ、地域を分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2019」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築

- ◆ 地域との協働による活動を学校の教育活動として明確化
- ◆ 専門人材の配置等、校内体制の構築
- ◆ 学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定
- ◆ 将来の地域ビジョン・求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発

【コンソーシアム】



地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開

(R2新規指定 13件程度)
(R1指定校 合計51校)

【プロフェッショナル型】

地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進

〔 ※専門学科を中心に実施
(R1指定校 11校) 〕

【地域魅力化型】

地域課題の解決等を通じた学習カリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

〔 ※普通科を中心に実施
(R1指定校 20校) 〕

【グローバル型】

グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成

〔 ※全学科を対象に実施
(R1指定校20校) 〕

【PDCAサイクル構築のための調査研究】

成果指標等の作成検証等による地域との協働による教育改革のPDCAサイクルの構築，成果普及のための全国サミット等を実施

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）の取組事例（山形県新庄北高等学校）

構想：新庄・最上LINKプロジェクト

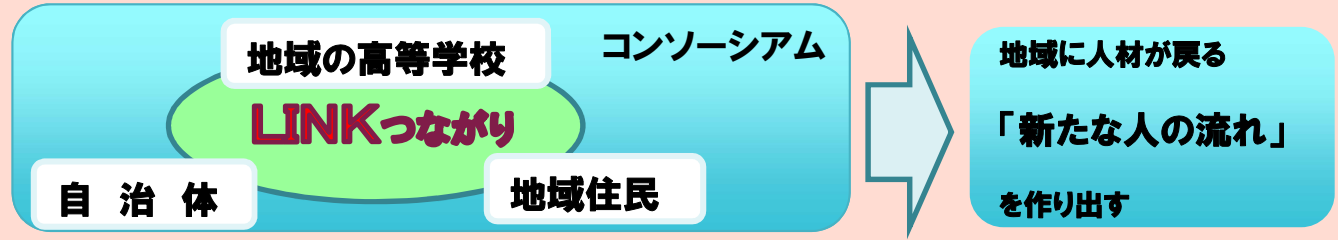
目的・目標 将来地域を牽引する力を持つ人材を育成するため、地域の8市町村及び山形県・企業・活動団体、地域住民と連携し、「**地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成**」する。

- ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③Society5.0に変容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材

地域との協働による探究的な学びを実現する学習の概要

<p>Local area academic inquiry</p> <p>A. 地域と密着した探究型学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●A-a 地域理解プログラム / 最上総合支庁等との連携で地域課題を探究 ●A-b 「ジモト大学」プロジェクト / 最上8市町村・県が提供するプログラムを体験 ●A-c 地域理解発展研究 / 地域をフィールドにした探究課題にチャレンジ ●A-d 研究発表実践 / 探究型学習の成果を活かした進路実現 ●A-e 地域系部活動の設置 / 地域連携のフロントランナーになる意欲的な生徒に探究の場を提供
<p>Information communication technology</p> <p>B. ICT技術の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●B-a 地域連携アプリの開発 / スマホを「振り返り」のe-ポートフォリオ化に活用 ●B-b 情報リテラシーの醸成 / ビッグデータ・AIを当たり前のもので活用できる生徒の育成
<p>New career education</p> <p>C. 新しいキャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●C-a アカデミックインターンシップの取組 / 進学校と地元企業との将来につながる情報交換の推進 ●C-b 研究実績の進路指導への活用 / 振り返りデータを用いた新しい高大接続の形の模索
<p>Key to success</p> <p>D. 成功のカギ「教育課程の開発」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●D-a 「ふるさと科目」の開設と教材開発 / 地域情報のインプットによる探究活動の深化と一般教科への還元 ●D-b 学校設定科目「Myエリア・ラーニング」の開設 / 地域での活動(ジモト大学、新庄まつり囃子や山車づくりなどを単位認定

地域との協働体制 ・山形県教育委員会、山形県最上総合支庁、新庄・最上地域の8市町村、新庄北高校、新庄南高校、新庄神室産業高校、新庄東高校、東北芸術工科大学、最上教育事務所、一般社団法人とらいあ、地元商工会議所でコンソーシアムを構成



(出典)2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業「実施体制の概要」「研究開発の概要」等をもとに文部科学省作成

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）の取組事例（三重県立飯南高等学校）

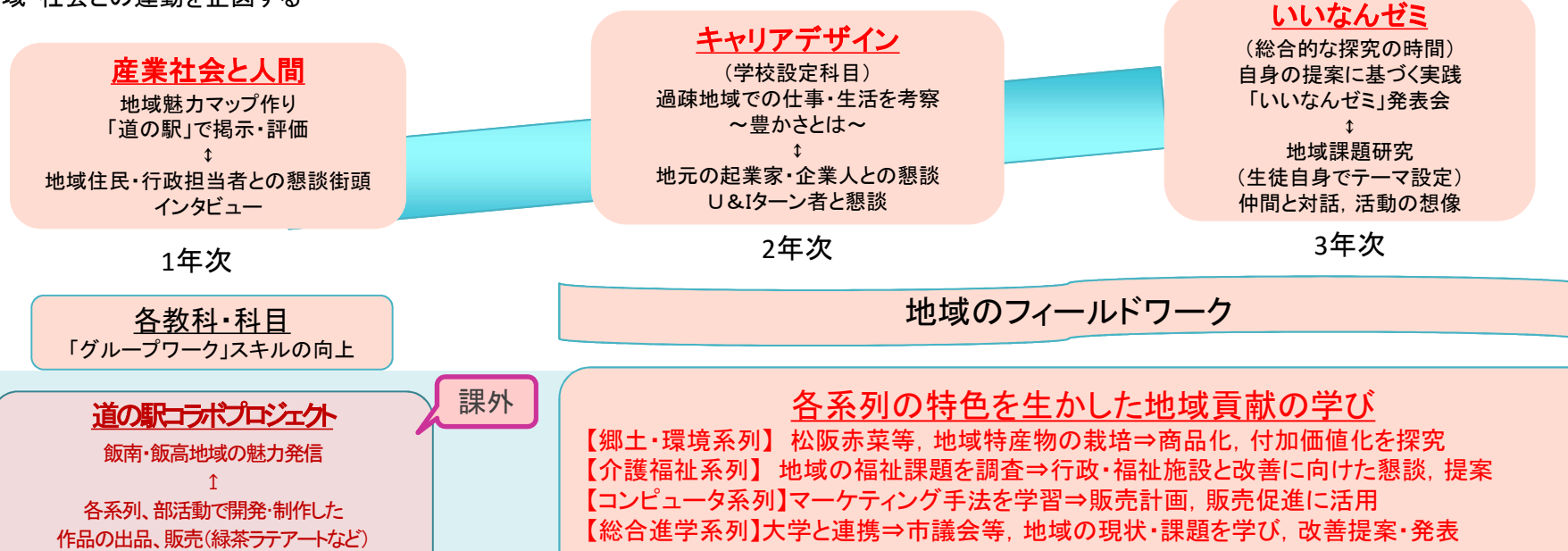
構想：「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

目的・目標

- 地域を学びの場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことができる、地域に根ざした人材を育成することを目的とする。
- その目的と人材に必要な4つの資質・能力（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成していくことを目標とする。

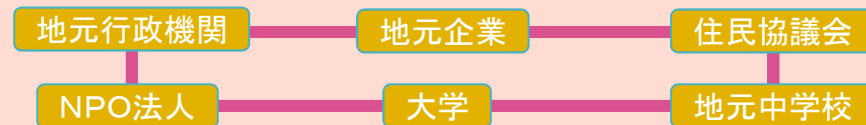
地域との協働による探究的な学びを実現する学習の概要

- ・総合学科の柱の3科目（「産業社会と人間」「キャリアデザイン」「いいなんゼミ」）を再構築し、3年間の学びの連動を強化して地域課題解決型キャリア教育を充実
- ・4系列の特色を生かした地域貢献のための学習活動、各教科・科目での地域題材・データを扱った教科横断的な学習の実施により、日常的な学びと地域・社会との連動を企図する



地域との協働体制

・飯南高校、松阪市、地元中学校、地元企業、地元NPO法人、三重大学、三重県教育委員会で「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」を構成



(出典)2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業「実施体制の概要」「研究開発の概要」等をもとに文部科学省作成

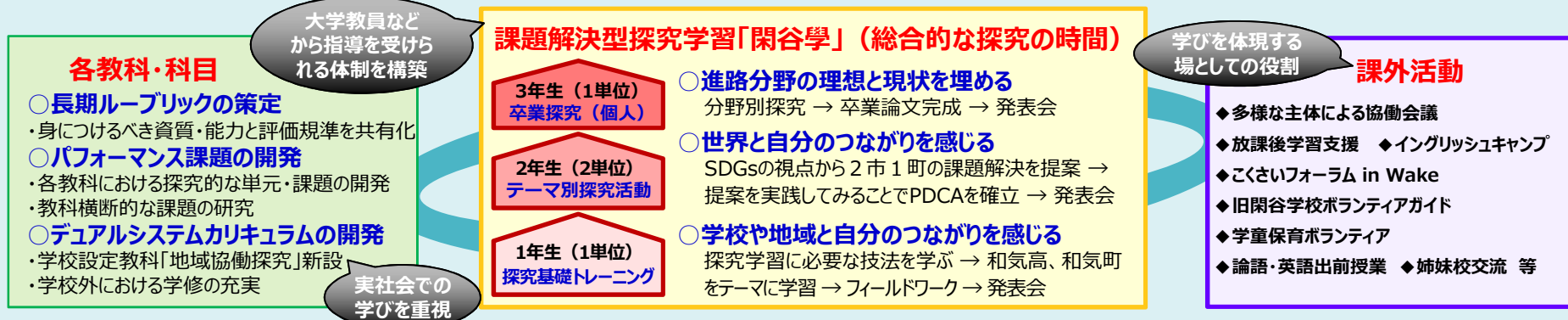
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）における取組事例（岡山県立和気閑谷高等学校）

構想：「怨」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成

- 目的・目標**
- 「地域と協働する探究人」の育成を目的とし、卒業までに身に付けさせたい資質・能力として、「7つのチカラ」（自分を理解する力、職業とつなぐ力、考える力、行動する力、コミュニケーション力、チームワーク力、自立する力）の向上を目標とする
 - (ア)各教科・科目の地域協働カリキュラム、(イ)地域協働デュアルシステムカリキュラム、(ウ)総合的な探究の時間の地域協働カリキュラム（課題解決型探究学習「閑谷學」）、(エ)各教科・科目等と連動する課外活動、(オ)(ア)～(エ)を支援する体制構築の5点の研究開発を実施

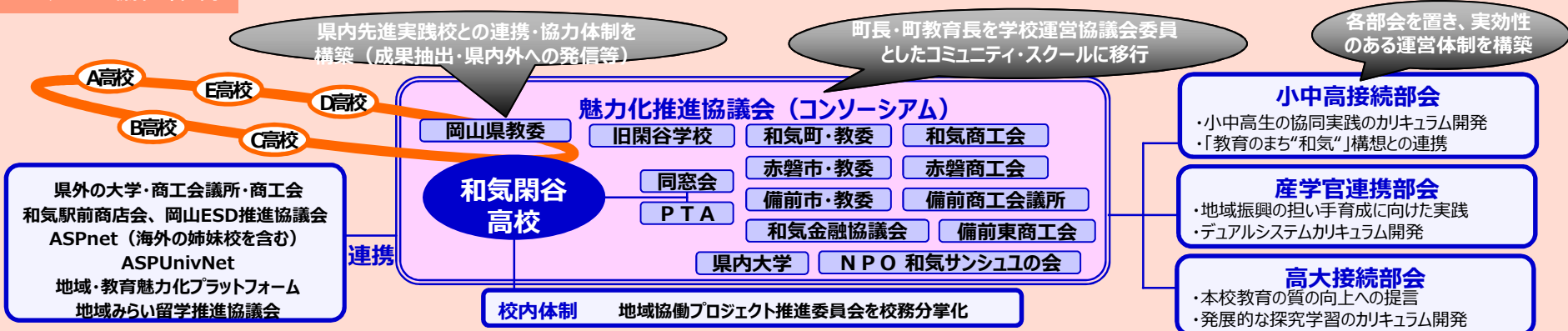
地域との協働による探究的な学びを実現する学習の概要

- 各教科・科目：「7つのチカラ」育成の年間計画を生徒と教師が共有した上で、教科横断的パフォーマンス課題を開発・実践
- デュアルシステム：2年次夏・冬・春の3期に各5日間、3年次「地域協働探究」の中で2か月間毎週金曜日を2期、就業体験実習や地域貢献活動を実施
→令和3年度入学生からは「地域協働探究」を2年次5単位、3年次6単位に拡充し、毎週金曜日終日探究活動が可能な教育課程へ改訂
- 総合的な探究の時間：1年次前期で探究の手法を学び、後期で和気町を主題に探究学習を実施。2年次は2市1町（和気町・赤磐市・備前市）等の課題・現代社会の課題をテーマに探究学習を実施。3年次は各自の進路分野について情報収集しながら、現状と理想の差を埋める提案を探究。



地域との協働体制

・地元自治体である和気町、近隣の赤磐市・備前市の自治体や大学、商工会議所、NPOにより新たなコンソーシアムを構築



（出典）2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業「実施体制の概要」「研究開発の概要」等をもとに文部科学省作成

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）取組事例（私立 星城高等学校）

構想：『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架橋プロジェクト』～新たなコミュニティを協創できるスーパーグローバル・リーダー（SGL）の育成～

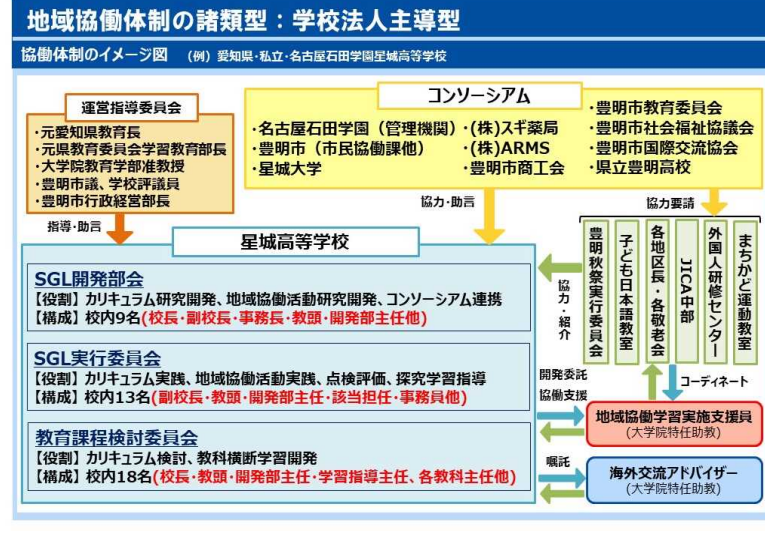
概要：グローバルな視点を持って①異なる考えを容認し、共生しようとする人間 ②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間 ③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間 ④人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダーを育成

特徴

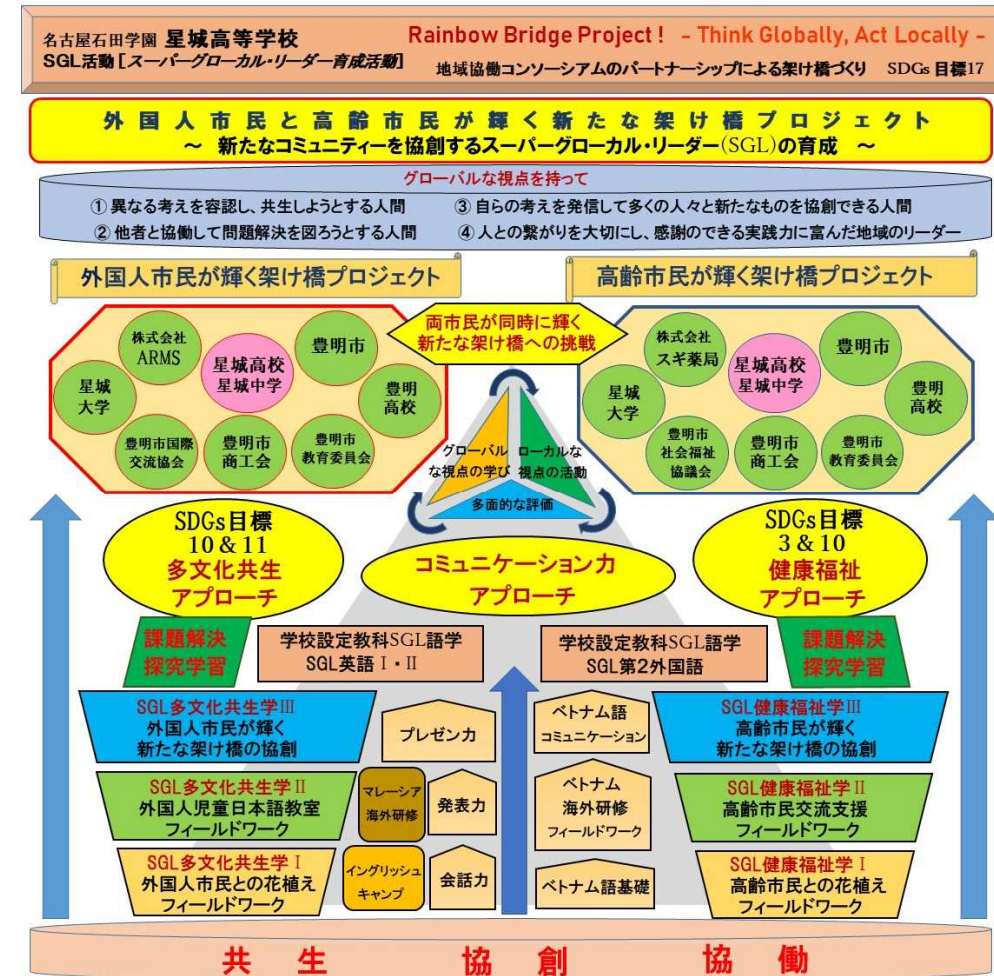
- 地域実態の把握に基づいた、「多文化共生」（外国人市民）と「健康福祉」（高齢市民）を推進するカリキュラム研究開発。
- 地域特性を背景に、教科に「多文化共生学」「健康福祉学」を取り入れる。
- 外国語「英語」のほか、第2外国語「ベトナム語」を研究開発。

地域協働体制 学校法人主導型

✓コンソーシアムの構築・運営を、学校法人が主導する類型。



構想図



(出典)「2019年度スーパーグローバルハイスクール・WWLコンソーシアム構築支援事業・地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）合同連絡協議会」（2019年6月28日）発表資料等より文部科学省作成

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）取組事例（公立 三重県立宇治山田商業高等学校）

構想：「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

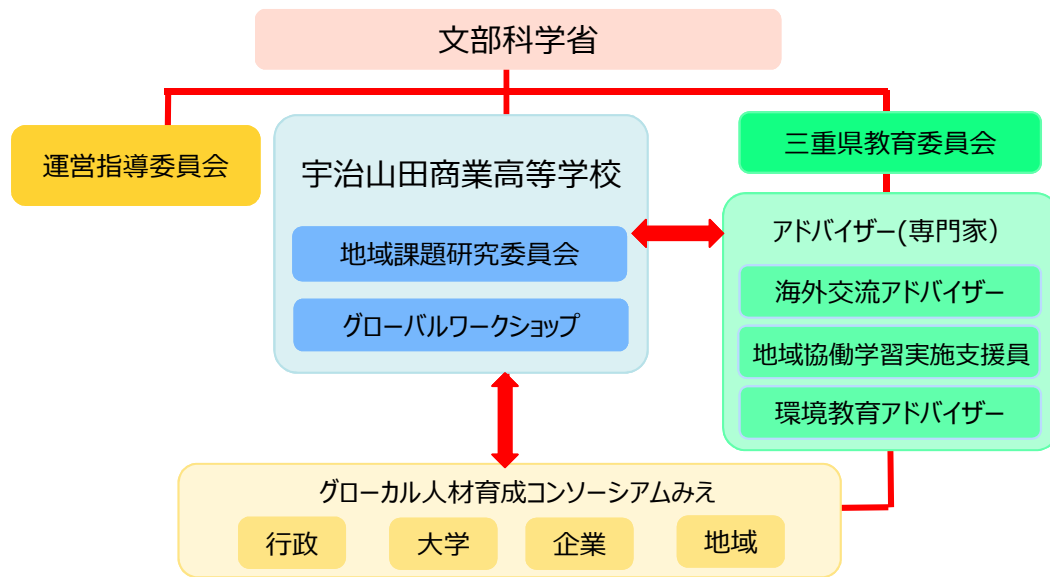
概要：持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成

特徴

- 研究開発対象：商業科、情報処理科、国際科。
- 教科教育によってSDGsの基礎的知識や思考力を身に付けた上で、観光や持続可能なビジネスを探究する取組。また自らのキャリア形成を探究する機会も提供。
- 「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の2つのプログラムを通して、地元伊勢志摩の魅力の対外発信とその持続可能性向上を図る取組。

地域協働体制 都道府県主導型

✓コンソーシアムの構築・運営を、都道府県が主導する類型。



（出典）「2019年度スーパーグローバルハイスクール・WWLコンソーシアム構築支援事業・地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）合同連絡協議会」（2019年6月28日）
発表資料等より文部科学省作成

1. SDGs推進プログラム開発

- ① SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）
 - ◆ 貧困の根絶（経済・社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正等について、様々な教科・科目で系統的に学習
- ② SDGs探究プログラム
 - ◆ 科目「課題研究」において、グローバルカンパニーでのインターンシップ、廃材を活用した商品開発等を実践
- ③ SDGs語学力向上プログラム
 - ◆ 科目「グローバル・コミュニケーション」において、地球的課題について、ディスカッションやディベートを実施



家具などの廃棄ごみリデュースプランの開発



2. 観光都市を描くプログラム開発

- ① 伊勢志摩PRプログラム
 - ◆ 科目「課題研究」で、コンソーシアムと連携し、SDGsの視点を踏まえた課題解決型学習の実施
- ② 国際交流プログラム
 - ◆ オーストラリア姉妹校との連携を強化（Web会議システム活用、長期留学生受け入れ）
 - ◆ SDGsや観光についての海外研修プログラム作成



様々な国の人と交流し、世界から訪れる人を出迎える観光プログラムの開発



自然と暮らしを繋げるグリーンツーリズムモデルの開発



構想：未来価値を創る玉手箱「地域協創スペシャリスト」育成プログラム

○工業科と商業科について専門性を追究するとともに、学科間連携から「環境保全」、「ビジネス」、「地域資源」の有効利用の面から多角的で実践的・探究的な考え方や行動ができ、かつ地域の産学官や異業種とも連携し、新たな付加価値・産業の創発（オープン・イノベーション）ができる「地域協創スペシャリスト」の育成を目指す。

【コンソーシアムの体制】

○機械・電子・電気系「未来ものづくり委員会」
飯田精密機械工業会 電子工業会 商工会

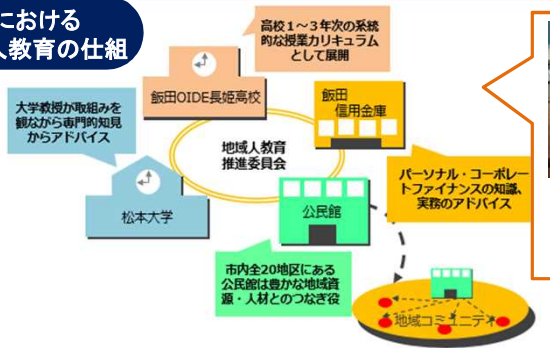
○建設系「夢まちづくり委員会」
飯田建設業協会 建築士会 土木会

○商業系「地域人教育推進委員会」
飯田市 松本大学 飯田信用金庫

【研究開発の内容】

「課題解決能力」の育成～地域人教育を通じて～

商業科における
地域人教育の仕組み



「地域人教育推進委員会」今年度は公民館主事も参加し、これまで5回実施している

「地域人教育（課題研究）」竜丘地区グループ
「こうこうせいといっしょ～90分の茶話会～」

公民館主事とともに、地域を題材としたプロジェクト型学習に取り組んでいる。このグループでは、家族以外と話す機会が少ない高齢者が地区に増えている現状を知り、高齢者と高校生が気軽に話しかけられる「茶話会」を5回開催した。この取組をきっかけに、今後は地域住民がこの活動を引き継いでいく。竜丘以外にも飯田市内の6地区において、地域の課題（願い）を解決する取組が「地域人教育」を通して行われている。



地域住民との打合せの様子

「高度な専門性」の育成

- 複合的な視点から、自らの専門性を探究し、高度な専門性を追究する力
 - 多角的で客観的に考える力
- 【主な具体的内容】
- ・実践的・体験的な工業技術、土木建築、ビジネスの各分野の専門性を探究
 - ・地域公開講座の実施及び研究開発



社会基盤工学科「測量実習」
「夢まちづくり委員会」と連携し、対象物を自動検知する測量機器やドローンなど先端機器を活用した実習を行っている

「協創力」の育成

- 高度な専門性を追究する力と経営管理能力の双方が結びついた人材の育成
 - プロジェクト型学習を実践で個々の能力を伸長
 - 専門を異にする学びから様々なアイデアが融合させることで、革新的で斬新的な発想力を育成
- 【主な具体的内容】
- ・学校設定科目「商品開発実践」において、模擬株式会社形態をとりながら、各科の生徒がテックレンジャーを題材としたマーケティング等の実践



工業科・商業科の生徒がともにアイデアを出し合い商品化を進めている

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）取組事例（三重県立四日市工業高等学校）

構想：スマートシティ四日市の実現に向けた「MIEものづくりSpirit」育成プログラム

地域の産業界等と協働し、スマートシティ四日市を実現するために必要な知識・技術を身に付け、ものづくりを通して地域の課題解決できる技術者の育成を目指した「MIEものづくりSpirit」育成プログラムを開発

【求める地域人材像】

- 超スマート社会で必要とされるAI、IoT、自動運転、ロボット等に関する先進的な知識及び「技術」を身につけた人材
- ものづくりで地域の課題を解決する力と地域に貢献する「精神（こころ）」を備えた人材
- グローバルで複合的な視野を持ち、地域産業及び地域社会を担うことができる人間性豊かな人材

研究開発の内容

【先進的な知識・技術の習得】

- ・IoT
- ・AI
- ・自動運転技術
- ・ロボット技術
- ・自動生産システム
- ・再生可能エネルギー
- ・ドローン技術 等

本科

物質工学科・機械科
電子機械科・電気科・電子工学科
建築科・自動車科

教科横断的なカリキュラム開発 スマートシティの構築に係る知識・技術の習得 【専門科目】

「工業技術基礎」「工業化学」
「機械設計」「電気基礎」
「建築計画」「自動車工学」

【共通科目】

「国語」「数学」「地理・公民」
「理科」「外国語」

地域の課題を地域との協働によって 解決する「課題研究」の実践



【実学教育】

- ・企業研修（短期・長期）
- ・技術者による指導
- ・大学教員による指導
- ・海外研修（ASEAN）

【新学習指導要領の学び】

- ・主体的・対話的で深い学び
- ・教科横断的な学び
- ・探究的な学び
- ・目標に準拠した評価

【超スマート社会の人材像】

- ・人工知能技術者
- ・データサイエンティスト
- ・サイバーセキュリティ人材
- ・起業家マインドのある人材

【高度な資格への挑戦】

- ・E検定
- ・IoTシステム技術検定
- ・ドローン操縦士 等

ものづくり創造専攻科

平成30年4月開設

- ・機械コース
- ・電気コース

【コース共通科目】

「制御工学」
「電子機械」 } 自動制御に関する学び
「生産管理」

・Smart Factoryに関する学び

【知的財産】

・起業家精神の醸成

【修了研究】

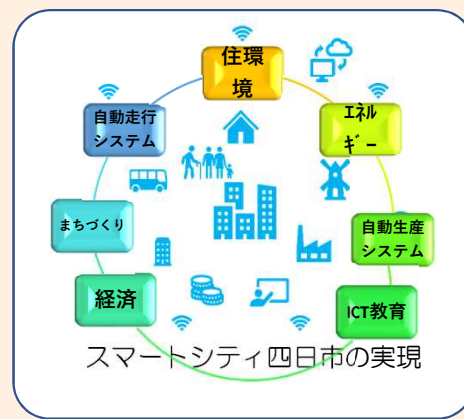
- ・企業等との共同研究
- ・高校生Factoryの設立

【地域貢献】

- ・ものづくり教室、出前授業の実施

目標モデル

- ・県内就職率の増加
- ・県内高等教育機関への進学者の増加
地域社会の担い手の増加



YONKOモデルの普及

- ① 県内工業学科への普及
 - ・三重県高等学校工業教育研究会
 - ・三重県工業高校生フェア
- ② 県内専門学科への普及
 - ・三重県産業教育フェア
- ③ 全国の工業学科への普及
 - ・全国サミット

コンソーシアムの体制

協働

県内企業、県内大学、県産業支援センター-高度人材イノベーションセンター、県中小企業同友会、四日市商工会議所、四日市市、県雇用経済部、県教育委員会

Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト

WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業

事業概要

これまでのスーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業などの取組の実績を活用

- ◆ 将来、イノベティブなグローバル人材を育成するため、文理両方を学ぶ高校改革と高大接続改革を推進するリーディングプロジェクト。
- ◆ 高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生により高度な学びを提供する仕組みを構築。
- ◆ グローバルな社会課題研究のカリキュラム開発や研究内容と関連する高校生国際会議の開催

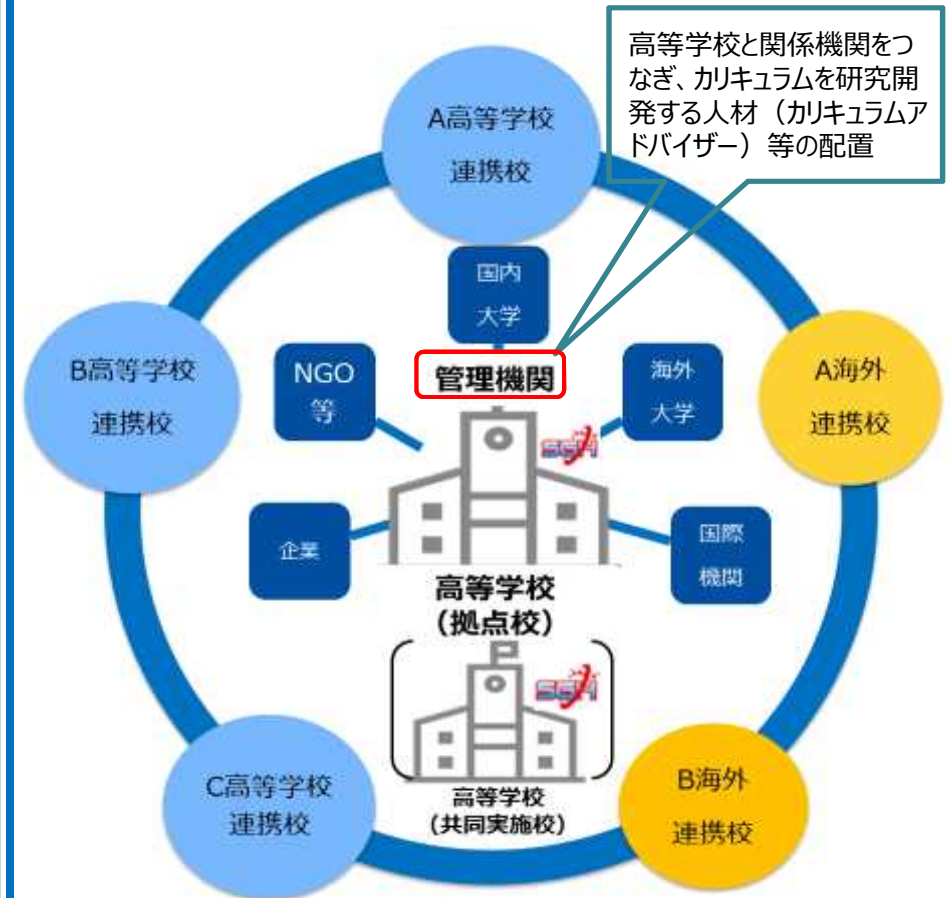


【高校生ESDシンポジウム2018年11月】

- ◆ 大学教育の先取り履修を単位認定する取組や高度かつ多様な科目内容を生徒個人の興味・関心・特性に応じて、履修可能とする高校生の学習プログラム／コースを開発・実践。

- 委託先：都道府県市教育委員会、国立学校法人、学校法人
- 対象学校：国公立高等学校及び中高一貫教育校
- 指定期間：原則3年（3年目の評価に応じて延長可）
- 拠点校数：15拠点（新規5拠点・継続10拠点）
- 委託経費：年間900万円程度／件（研究開発内容や対象生徒など規模に応じて決定）
- 調査研究：1件（事業の評価・検証の在り方を検討。代表的な取組事例や優良事例を把握・公表）

アドバンスト・ラーニング・ネットワークのイメージ



国際会議の開催等により、プロジェクトが効果的に機能するよう高校間のネットワークを形成

今後5年間ほどでアドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成した拠点校を全国に50校程度配置し、将来的にWWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアムへとつなげる

構想：国際フィールドワークを通して持続可能な国際社会を創る人材育成システムの構築

テーマ 持続可能な社会の実現

人材
像

SDGsの課題解決、広い視野と専門性、新たな分野同士の融合によりイノベーションを起こす、世界の架け橋

特徴

- ①新たな教科・科目の開発：地球市民性教育「グローバルライフ」、「アセアンフィールドワーク（インドネシア、タイ、フィリピン、シンガポール、マレーシアから国を選択）」、フィールドワークに付随した第2外国語「インドネシア語・タガログ語」等を開発。
 - ②海外研修等：全員がアセアンフィールドワーク（インドネシア、タイ、シンガポール、マレーシア）を経験。選抜による「国際フィールドワーク（インドネシア）」「国際フィールドワーク（オーストラリア）」実施。
✓留学生と一緒に授業・探究活動等を履修し「高校版キャンパスinキャンパス」の構築を目指す。
 - ③先取り履修等：筑波大学のSDGs関連の学士プログラムやAIMSプログラムと連携し、大学教育の先取り履修。
 - ④国際会議等：海外姉妹校の留学生と一緒に「高校生国際SDGs会議」を開催を予定。
- 海外に13のオフィスを持つ筑波大学の世界展開力を附属学校でも活用し、アジアから世界にネットワークを拡大し、世界の舞台で活躍できるグローバル人材の育成システム構築を目指す。

探究活動の様子

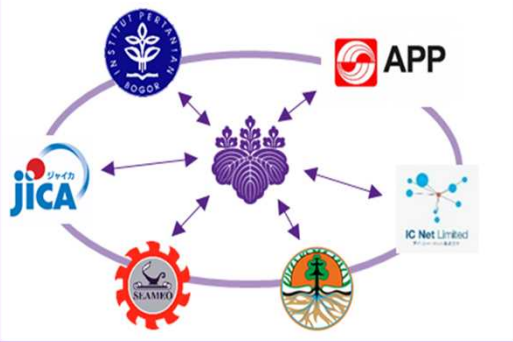


高度な学びを実現する「アドバンスネットワーク（ALネットワーク）」関係図と類型

✓ネットワークの構築・運営を、大学が主導する**大学主導型**

AL-Network連携先例

- ・国際協力機構
- ・海外省庁
- ・海外大学
- ・海外附属高校
- ・グローバル企業
- 等



筑波大学のコンピタンス

- SGHの幹事校・管理機関
- SSH事業17年の実績
- 国際交流71ヵ国・地域、計383協定のネットワーク
- 「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」加盟 (国立大として初)
-



構想：広島から世界へ！ 平和に貢献するグローバル人材の育成

テーマ **平和 – Peace –** 人材像 **グローバルな視野と強い使命感をもち、持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材**

特徴

①新たな教科・科目の開発：新たな教科「H E I W A」・科目「グローバル平和探究」を開発。

✓問題の理解や解決に様々なアプローチができるテーマについて、理解を深め、実際の探究を通して多面的に探究する手法や多様な表現方法を学ぶ。
「外国語」「地理、政治・経済」「情報、数学（統計）、理科（生物）」の融合科目

②海外研修等：3ステップの海外研修を実施。 ✓フィリピンやアメリカにて現地の姉妹校の高校生や海外大学で探究活動を実施。

「ステップ1：意識・価値観の揺さぶり」「ステップ2：海外大学で学ぶ」「ステップ3：自らの課題を探究、学びを深め、社会に貢献」

③先取り履修：広島大学、県立広島大学の科目を履修する講座（「先取り履修」）を設置予定。

④高度な学び：「Stanford e-Hiroshima」の開講。

✓スタンフォード大学遠隔講座「Stanford e-Japan」のテーマを広島県版として

⑤国際会議等：「平和」をテーマとした高校生国際会議の開催。 改訂し、クロスカルチャーカリキュラムとして提供。

→広島県「国際平和拠点ひろしま構想」とともに、先導する人材を育成するための様々な関係機関とのコンソーシアム構築を目指す。

探究活動の様子

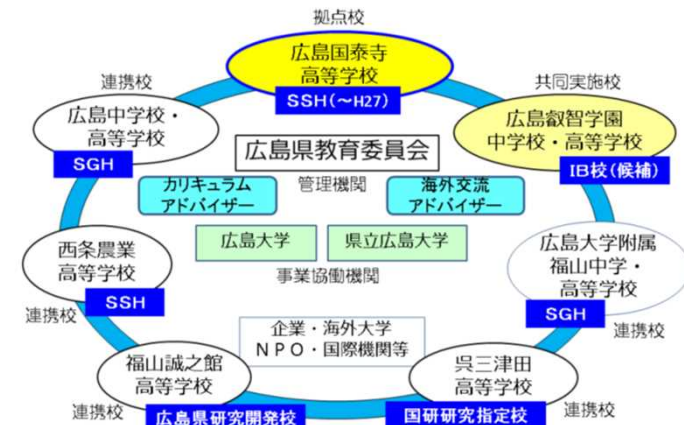


④の様子：スタンフォード大学遠隔講義

①の様子：探究活動の様子

高度な学びを実現する「アドバンスネットワーク（ALネットワーク）」関係図と類型

✓ネットワークの構築・運営を、教育委員会が主導。 →教育委員会主導型



構想：イノベティブなグローバル人材育成を目指す教育システムの開発

テーマ SDGs実現に向かってアクションを起こそう ～Diversity and Inclusion～ 多様性を受容し協働できるグローバル社会の実現に向けて

人材像 Society5.0に求められる力を身につけ、世界で活躍するビジョンや資質・能力を有したイノベティブな人材

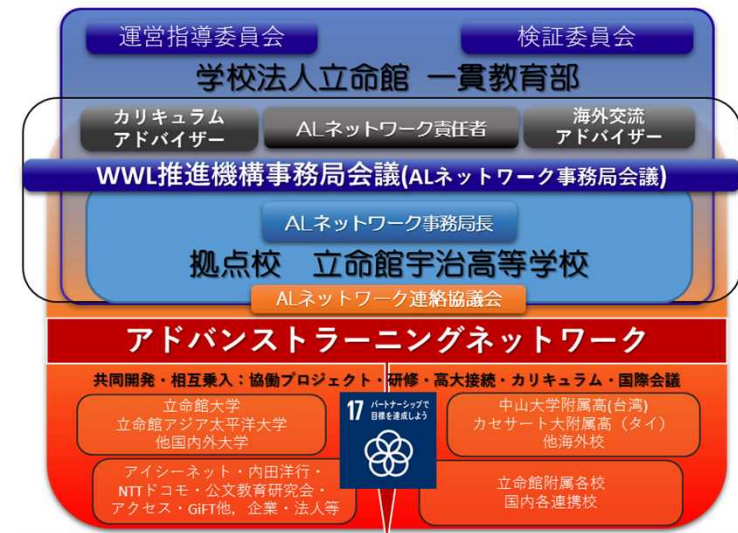
- 特徴**
- ①多様な背景を持つ学校や団体で構成された全国型ALネットワークの形成
 - ②新たな教科・科目の開発：文理融合クラスによる「コア探究」「SDGs I・II」「Science for SDGs」「Global Leadership Studies」等を開発。
 - ③海外研修等：全員が1年間留学するIMコース、「Global Leadership Studies」と連動した海外プロジェクト（ラオス）やIGコース、「SDGs」と連動した海外プロジェクト（フィリピン）を事業連携校の高校生と共に実施。協働プロジェクトに発展。
 - ④高度な学び：高大接続科目「文科探究」等を学校設定科目として開発。
 - ⑤国際会議等：目的・英語力によって分類した3タイプの「高校生国際会議」の開催。

1. Global Youth Fair：生徒主体で開催。課題研究の成果を英語で発表し深める。(予定)
2. World Youth Meeting：海外連携校の生徒と協働し解決案を提言。(実施)
3. SRサミット：大学生や企業・団体も含む多国籍チームでプロジェクト学習。(実施)

→ OECD日本イノベーション教育ネットワーク (ISN)とも連携しながら新しい学びのモデルを推進を目指す。

高度な学びを実現する「アドバンストネットワーク (ALネットワーク)」関係図と類型

✓ ネットワークの構築・運営は、拠点校と大学共同の**高大共同型**



探究活動の様子



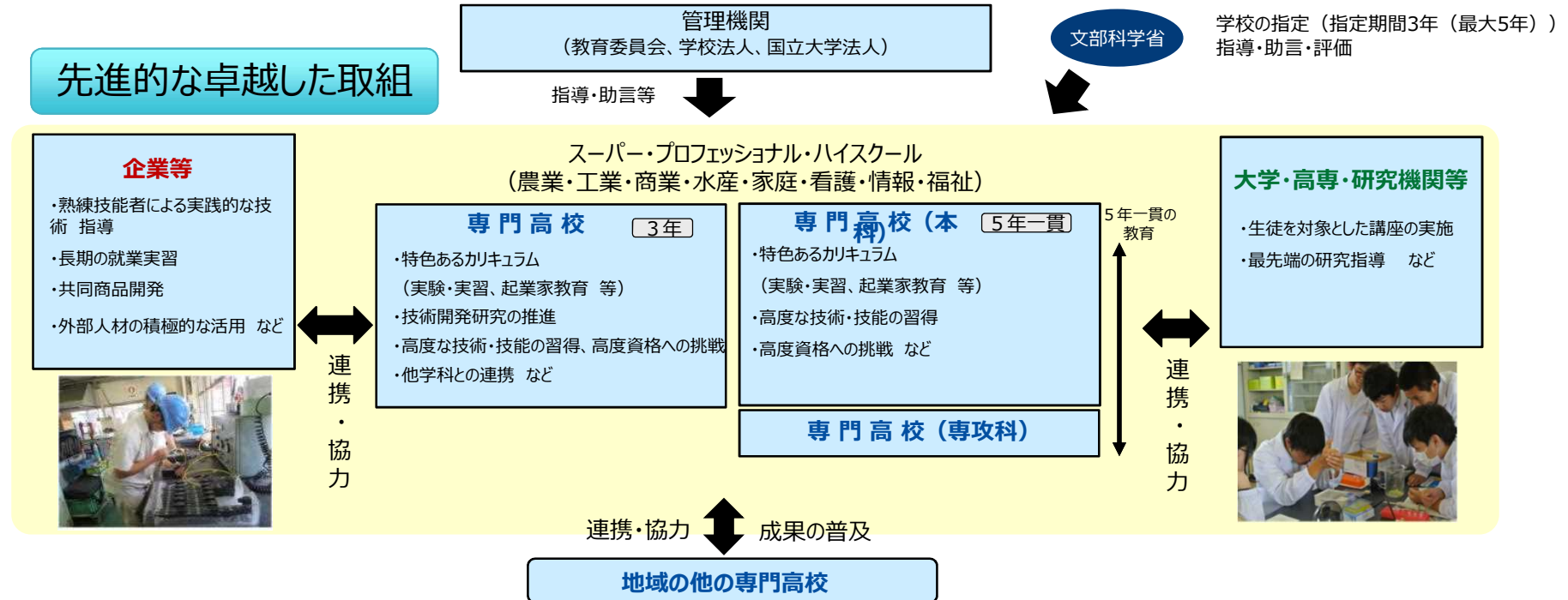
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

令和2年度予算額 48百万円
 (前年度予算額 85百万円)



(1) 「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の継続指定 (10校)

社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校（専攻科を含む）において、実践研究を行う。



- ・我が国の産業の発展のため、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成
- ・成果モデルを全国に普及し、専門高校全体の活性化を推進

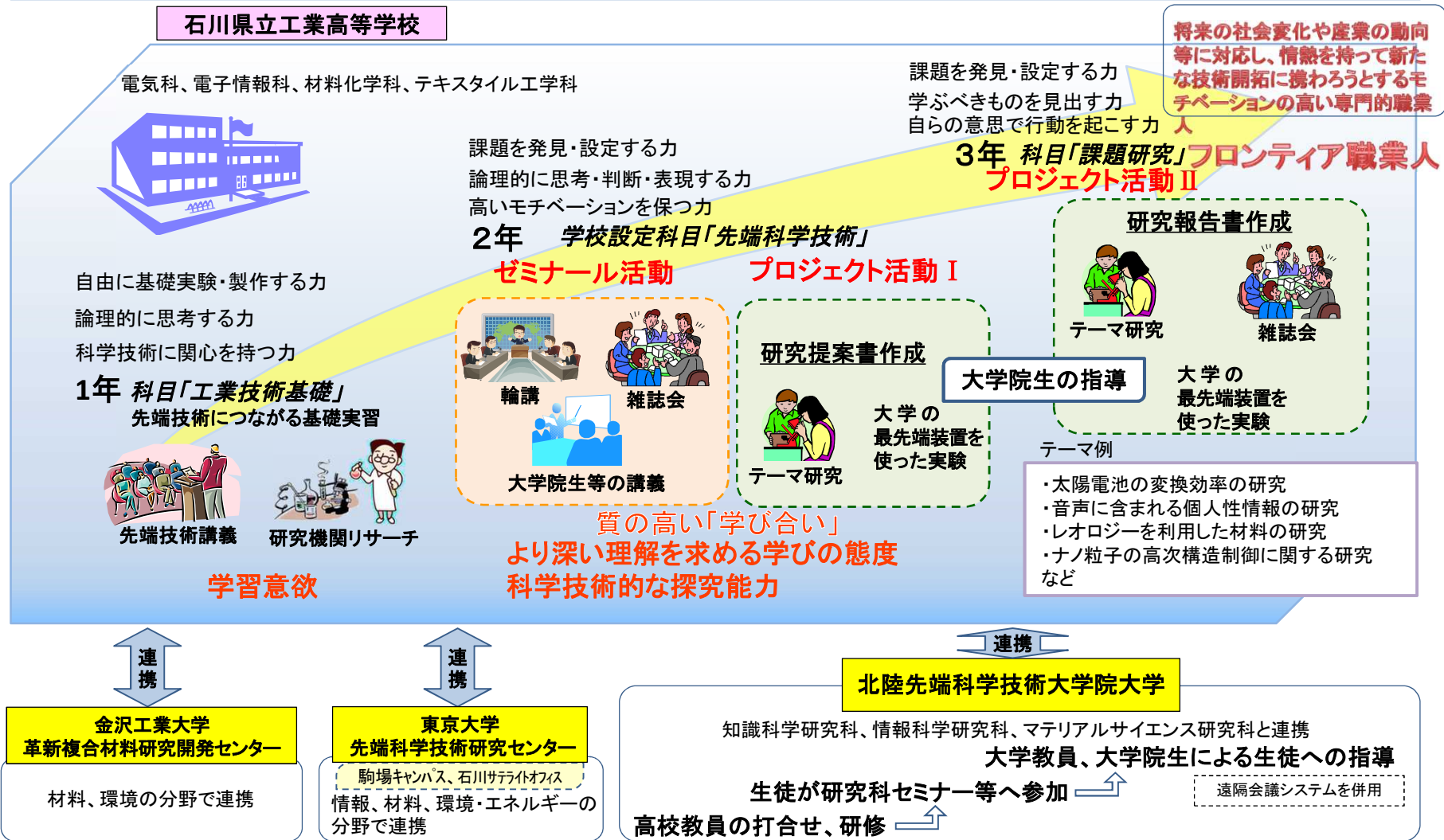
(2) 専門高校の魅力発信に関する調査研究

専門高校における優れた取組や特色ある取組について、全国の専門高校間で共有し、これらを専門高校の魅力として広く社会へ発信するため、企業等と専門高校との効果的な連携手法による長期間の就業体験活動についての先進事例等に関する調査研究を行う。

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)における取組事例 (石川県立工業高等学校)

研究開発課題: 高等教育機関と連携したフロンティア職業人育成プログラムの開発 - 大学院レベルの先端科学技術への挑戦 -

研究開発概要: 北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)等の高等教育機関との連携を通して、高度な内容を含む教育活動を展開する。



スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)における取組事例 (岐阜県立岐阜商業高等学校)

研究開発課題:『会社設立・経営を通して実践力・創造力・起業家精神を身に付け、グローバルに活躍するビジネスリーダー育成プログラム』
 ~Be the CEO Project(「生徒全員が社長」プロジェクト)~

研究開発概要:企業・大学・研究機関等と連携し、先端的な知識・技術を習得するとともに県内産業の活性化や日本経済の発展に貢献する学校を目指す。



Creativity
創造力

Global Mind
グローバルマインド

Practical skills
主体的な実践力

会社設立・経営をととして実践力・総合力・起業家精神を身に付け、グローバルに活躍するビジネスリーダー育成プログラム

Be the CEO Project



机上だけでは終わらない商業教育を。

Be the CEO Projectは「生徒全員が社長」という意識のもと、学校がひとつの巨大な総合商社「株式会社LOB(仮称)」として機能し、その中で学生が自由な発想を武器にビジネスを展開できる仕組みである。産官学の連携による生きた知識を得て、実際に企業経営を実践することで、商業教育の更なる専門性の深化を図る。

現役学生の
公認会計士による
コンサルティング
サポート



ソニールビジネス
高校(韓国)との
連携

- グローバルなシーンでのビジネスに必要な知識を体系的に学習
- 長期休暇時を活用し、ショートステイによる共同授業
- 英語を中心とした外国語教育にも注力



2014年1月/日本での交流の様子

株式会社 LOB(仮称)



- 学生が一定の資金を基に新規ビジネスを起こす「Be the CEOプロジェクト」をはじめ、複数の事業を包括した企業体
- 学生、教員、PTAにて運営(※会社設立は同窓会、PTAが行う)
- 初年度は従来通りの対面販売方式で事業を展開し、次年度以降からはネット販売へとシフト

株式会社LOB(仮称)の主な活動内容



- 学生が展開する
新規ビジネス
- 会社経営
 - 商品開発・販売
 - 新規ビジネス発掘



- ネット販売の展望
- 各種商品のネット販売は、学内の「情報処理科」にて運営予定。
ソニールビジネス高校とも密に連携し、東南アジア市場をはじめ、広く世界を見据えていく。



- iPhoneアプリ
開発・販売
- 自社アプリ開発・販売
 - 受託開発
 - 学内の受託開発



- デザイン工房
- LOBの広報、販促
 - 外部からの受託
 - 学内の受託

県内外の大学、行政機関、民間企業との連携による強力なバックアップ体制

中央大学 商学部とのビジネス教育抱括連携



行動する知性。
中央大学
ビジネス分野全般における包括的連携教育を実施予定。マーケティングや経営学、ビジネスに関する法務など、ビジネスに関する学問的知識を深めていく。

企業との協働による創造力のトレーニング



実習風景と商品化した「黒校舎ドリア」
企業と協働での商品開発に参画することで、アイデアを形にする手法やスキームを経験し、市場のニーズに即したアイデアを創造する力を向上させます。
ビジネスプランコンテスト実施

岐阜県商工労働部との連携

商工政策課の主催するイベントに参画をし、企業と共同で作業をし、社会貢献をしながら現場を学ぶ方法を模索。
高校生によるアイデアを発表できる場を設け、スマートフォンアプリの開発を体験できる機会を創出するなど、実社会のニーズ合ったスキルを習得するための場に積極的に参画。

農・工・商が連携した
専門高校コラボレーション

農業やデザイン等の他業種の専門高校との協働プロジェクトを実施し、新しいビジネスを創造するための想像力を高める機会を創出。
県内:岐阜工業高校、岐阜農林高校
県外:長尾県立鳥居原農業高校、佐賀県立有田工業高校